

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

為替週間展望 = ドル円は 109 円台で底堅い推移か

[5月10日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		5月3日～5月7日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	109.24	109.70(3)	108.90(3)	109.17	-0.14
ユーロ・ドル	1.2033	1.2076(3)	1.1986(5)	1.2056	+0.0036
=====					
国内株・金利 / 米国株・金利					
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	29,357.82	+545.19	日本10年債利回り	0.089	-0.008
ダウ平均株価	34,548.53	+673.68	米10年債利回り	1.570	-0.056

<来週の主要経済統計等>

- 10日 豪3月小売売上高
- 11日 日本3月勤労者世帯家計調査
中国4月消費者物価指数、中国4月生産者物価指数
独5月ZEW景況感指数
- 12日 日本3月景気動向指数
英国第1四半期内総生産(GDP)速報値
英3月鉱工業生産指数、英3月製造業生産指数、英3月貿易収支
独4月消費者物価指数
ユーロ圏3月鉱工業生産指数
米4月消費者物価指数
米4月財政収支
- 13日 日本3月経常収支
米新規失業保険申請件数、米4月生産者物価指数
- 14日 米4月小売売上高、米4月輸入価格指数
カナダ3月製造業出荷、カナダ3月卸売売上高
米4月鉱工業生産・設備稼働率
米5月ミシガン大学消費者信頼感指数

【前回のレビュー】米経済指標の堅調さがすぐに米長期金利の上昇に結び付くわけでは
ないものの、良好な経済指標はドル円の支援材料になりやすい。ドル円は109円台を
回復して、その後も堅調な推移が見込まれるとした。

【米10年債利回りは落ち着いた動き】

3日にドル円は米国の景気回復への期待感などを背景に109.70前後まで上昇し
た。その後は4月の米ISM製造業景況指数が予想を大きく下回ってドル売りの動きと
なり、109円を割り込んで、108.90近辺まで下落した。

3日発表の米ISM製造業景況指数は60.7と前回の64.7から低下した。事前
予想では65.0と強い数字が見込まれていた。新型コロナウイルスの影響で原料や部
品の供給などに支障をきたしたとみられ、サプライチェーンの問題が生産への悪影響に
つながったようだ。

ドル円は3日の108.90～109.70がこの週のレンジとなった。その後は1
09円台前半から半ばでの横ばいでの推移が続いた。日本市場がゴールデンウィークの
大型連休となったことやドル円を大きく動かす材料に乏しかったことなどが背景にあ
る。米10年物国債利回りも、3日に1.60%を割り込むと、その後も1.56～

1. 59%前後での落ち着いた動きが続いており、活発なドル買いの動きにつながり弱くなっている。

米金融当局者などの発言では、景気は回復しているものの、危機を脱するには至っていないとの認識を示しているケースが多い。3日のパウエルFRB議長の発言では、「経済見通しが明るくなったのは確か。ただ、危機は脱していない」「経済再開で活動と雇用創出が活発になる」と述べている。

同日のウイリアムズNY連銀総裁は「力強い回復を成し遂げるには長い道のり。経済指標は政策変更には不十分」との認識を示した。4日にバイデン米大統領は「1億5000万人の米国人が1回以上の接種を受けた」と述べており、米国でのワクチン普及が進んでいることを強調した。

そうした中、4日にイエレン米財務長官が「景気過熱の抑制のために金利上昇が必要になる可能性がある」と発言した。政権のメンバーが金利の見通しに言及する異例の内容となった。一時的にドルの買い戻しが進んだが、その後は落ち着きを見せた。なお、イエレン長官はこの後、「利上げを予想したわけでもなければ、推奨したわけでもない」と火消しに動いている。

米国の景気や雇用がさらに回復するまでは米連邦準備制度理事会（FRB）は低金利政策や量的緩和策を継続するというのが、市場関係者や当局者のおおよそのコンセンサスとなっている。ただ、ダラス連銀のカプラン総裁のようにカ派的な発言が目立つ当局者もいる。同氏は6日に「失業率は年末時点で4%未満に低下している可能性がある」「資産購入ペース縮小の議論の開始は遅いよりもむしろ、早い可能性」などと述べており、量的緩和の縮小（テーパリング）に前向きな発言をしている。ただ、テーパリングの議論がさらに進むには、一段の景気回復が必要になろう。

ドル円は109円台を中心に小幅な値動きが続いている。米経済指標は予想から下振れするケースはあるものの、総じて高水準で堅調な動きを見せており、米国経済が回復に向けて動いていることを示している。ただ、米長期金利は抑えられており、ドル円が大きく上昇する地合いではない。一方で、ドル円は底堅い動きが継続しており、109円台を中心に堅調な動きが続くとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、108.50～110.50円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、11日に日本3月勤労者世帯家計調査、12日に日本3月景気動向指数、米4月消費者物価指数、米4月財政収支、13日に日本3月経常収支、米新規失業保険申請件数、米4月生産者物価指数、14日 米4月小売売上高、米4月輸入価格指数、米4月鉱工業生産・設備稼働率、米5月シガン大学消費者信頼感指数などがある。

【ユーロドルは底堅く推移か】

4月30日にユーロドルは1.21台前半から1.20台前半まで大きく値を崩した。良好な米経済指標を受けてのドル買いなどが背景にある。その後は1.20ドル割れでは買いに支えられて、徐々に直りを見せている。

欧州でもワクチン接種の拡大により、欧州連合（EU）が域内へのワクチン接種済み旅行者への制限措置の終了を提案したと報じられるなど、経済活動再開による景気回復への期待感が広がっている。ユーロドルは底堅い動きが続いて、緩やかに上値を追う展開が期待できそう。ユーロドルの目先の予想レンジは1.1975～1.2200ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、10日に豪3月小売売上高、11日に中国4月消費者物価指数、中国4月生産者物価指数、独5月ZEW景況感指数、12日に英国第1四半期内総生産（GDP）速報値、英3月鉱工業生産指数、英3月製造業生産指数、英3月貿易収支、独4月消費者物価指数、ユーロ圏3月鉱工業生産指数、14日にカナダ3月製造業出荷、カナダ3月卸売上高などがある。

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。